

実施日	視察先	視 察 項 目	備 考
4月30日	福岡県 筑後市	筑後船小屋駅周辺まちづくり 構想	市役所 現地視察
5月1日	鹿児島県 鹿児島市	鹿児島市中央卸売市場 (青果市場)	現地視察
5月2日	鹿児島県 霧島市	国分上野原テクノパーク	現地視察

視察先	項 目	調 査 内 容
筑後市	筑後船小屋駅 周辺まちづく り構想	<p>筑後市は、福岡県南部に位置し、人口約4万9,000人・面積41.85平方キロメートルの自治体である。筑後平野の中心に位置し、温暖な気候と肥沃な土壌を生かした農業の先進地として発展してきた。2011年3月に九州新幹線筑後船小屋駅が開業し、県南の玄関口としての役割も期待されている。</p> <p>駅周辺のまちづくりを考えるために、2011年9月「筑後駅周辺まちづくり構想策定会議」を立ち上げた。半年の間に策定会議4回、市民会議2回、市民アンケート1回行ったが、構想策定に当たり、特に市民参加を重視した。市民アンケートでは、周辺地域だけでなく広く意見を求めるために市全体を対象に行った。</p> <p>市民会議は、行政職員なしで行われた。ファシリテーターを中心として、市民の意見を出し合い、活発で前向きな議論が行われた。こうした市民会議の中で、「優良農地は極力保全」「既存住環境の改善」などの意見が出され、既存の地域資源を生かす方向</p>

		<p>が定められた。</p> <p>まちづくりの目標として「笑顔と緑あふれる『住みよかまち』筑後船小屋」を定め、まちづくりのテーマとして定住・交流・交通・環境の4つのテーマを定めた。定住のテーマとして「既存の農地・農業と調和しながら多様な世代が住む、田園居住のまちづくり」を定めるなど、既存の地域資源を活用していく方針が強く打ち出されている。</p> <p>将来の土地利用のあり方として、駅周辺を9つのブロックに分け、それぞれ土地利用の考え方を定めている。特に優良農地が存在する地区では、農地を生かした土地利用としている。また、駅の南部に広がる広大な県立筑後広域公園を有効な地域資源として活用していきたいとのことであった。</p> <p>担当職員が繰り返し強調していたのが「身の丈にあったまちづくり」という言葉で、新幹線の開業という大きな出来事にも関わらず、市の財政規模や地域の実情に合わせて、無理な計画を立てなかったとのことである。また、市民参加を重視し、住民生活から構想を考えていったことも特徴的で、その結果、既存の農地を生かすことなどが構想の中に盛り込まれている。</p>
--	--	---

視察先	項目	調査内容
鹿児島市	鹿児島市中央卸売市場（青果市場）	鹿児島市は、鹿児島県の中心に位置し、人口約60万6,000人・面積547.07平方キロメートルの自治体である。南九州の拠点都市として発展してきた。

		<p>鹿児島市中央卸売市場は 1935 年に開設された九州で最も歴史のある市場である。敷地面積は、青果市場が約 9 万 7,000 平方キロメートル、魚類市場が約 3 万平方キロメートル。昨年の取扱高は、青果が 18 万トン・320 億円で、魚類が 2 万 8,000 トン・170 億円である。</p> <p>青果市場は、1976 年に現地に移転整備されたが、現在では築 40 年近くなり、老朽化が進行している。2009 年に、中長期的な展望として「鹿児島市中央卸売市場整備計画」を策定。また、具体的な整備計画として、2012 年に「鹿児島市中央卸売市場青果市場リニューアル基本計画」を策定した。</p> <p>青果市場の課題としては、①築 40 年近くが経過し、建物の外壁の剥離が目立つ、②建物内部でも壁の剥離があり、内部が暗い、③荷捌場に屋根がなく、購入した青果が高温にさらされるなどの課題がある。</p> <p>こうした課題に対応するために定められたのが「鹿児島市中央卸売市場青果市場リニューアル基本計画」であり、計画期間は 2012 年度～2018 年度までの 7 年間。低温卸売場の増設や屋根付荷捌場の新設などが計画されている。屋根付荷捌場は市場の本体施設をぐるりと囲むような形状で、高さ 7 m、総面積 7,500 平米と巨大なものになる予定で、事業費は約 7 億 5,000 万円で予定されている。</p> <p>鹿児島市中央卸売市場青果市場リニューアル基本計画の特徴は、「既存施設の長期的活用」を念頭に置いていることで、「今後</p>
--	--	--

		30年は市場を機能させる」との考えに基づいている。また、市場全体の機能向上や現在地での整備など、限られた財源の中で事業を取捨選択していることは、柏市の市場整備においても大いに参考になる話であった。
--	--	--

視察先	項目	調査内容
霧島市	国分上野原テクノパーク	<p>霧島市は鹿児島県中部に位置し、人口約12万7,000人・面積603.68平方キロメートルの自治体で、北部の霧島連山から南部の錦江湾まで多彩で豊かな自然が広がっている。</p> <p>国分上野原テクノパークは鹿児島県が事業主体となり、1988年に分譲開始された。団地総面積は43.8ヘクタールで、そのうち工業用地面積は25.5ヘクタール。分譲単価は平米9,000円で、坪単価は約3万円である。工業用地25.5ヘクタールのうち、18.5ヘクタールが分譲済みで、分譲率は72.5%である。</p> <p>分譲予定地内に縄文時代の集落跡が見つかり分譲予定地の約4割が「縄文の森」となっている。また、テクノポリス法に基づいて指定を受けているため、研究開発型の産業の誘致を進めている。また、霧島市工業系学校が集積しており、人材の供給体制が整っていることも大きな利点となっている。</p>